

京都教区時報

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2頁 魅力ある教会って?? (安曇川教会)

3頁 「求道者に同伴する信徒」養成講座

京都教区広報委員会

編集長 村上透磨

京都市中京区

河原町通三条上る

TEL 075-211-3468

FAX 075-211-4345

点訳版「京都教区時報」(無料)
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶽崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 0794-31-8601

希望・人生のリズム

〔信仰の統合的センス〕

年頭書簡8は「あなたの信仰は人生の物語となっていますか?」との問い合わせ始まります。これは昨年の年頭書簡9で語られたことです。統合的センスは次のように説明されます。

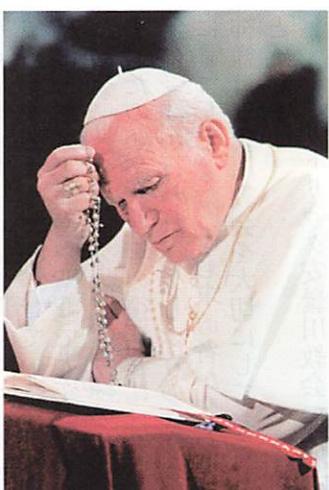
「信仰のセンスは、統合的感覚である。これは即ち、信仰の発見的・認識的・キリスト論的・秘跡的・実践的・救済的センス」に働いており『この統合が、過去と現在、信仰と個人のアイデンティティー、教義と生活、信仰と実践をつなぐ。罪と救いの人達の糸は、一つの物語である。意味ある全體に織り込まれている』。その物語において、神はない、また自らを顕すのですと。

さて、年頭書簡では「ロザリオの祈りの単純なりズムは人生のリズムを刻む」という言葉を導入の言葉として、信仰の統合的センスをロザリオの二つの神秘をもつて説明されます。一つは、マリアの奉獻(喜びの神秘第4)。その呼びかけは、毎日の生活を神に奉獻しよう。もう一つは、いばら冠(苦しみの神秘第3)で、その呼びかけは、「誤解や侮辱を恐れずに、信仰に生きよう」とある。マリアの奉獻には「心を剣で刺し貫かれる」との預言が含まれている。これは、私達の信仰生活には必ず、犠牲と困難が伴うのが、その中で愛をもつて、マリアのように「アーメン」(そうでありますように)

と言い続ける真の信仰を見出します。

いばらの冠をかぶせられた時、あらゆる侮辱と苦難を耐えしのびます。そこには「ゲッセマネの園の時、血の汗を流しながら私の願いではなく、み心のままに行つて下さい」(ルカ22・42)と言いつける真の信仰が認められます。

ゲッセマネの園におけるキリストは、最大の苦悩と絶望との戦いであつたと、ある聖女は言っています。そして、この個所は神不在の現代社会では、見えない神に希望を置く福音的価値観が無視されても、私達はこれを選択していく信仰が要求されます。現代は確かに信仰によって生き続けることは非常に困難な時代です。だからこそ「希望」をもつて信仰による「人生の物語を造り上げていかなければならぬ。そのためキリスト者は、日々の生活の中でもいつも愛を持つて「アーメン」と言い続ける信仰を持っています。また、み旨が行われますようにと祈りつつ生き続ける信仰が求められていることになります。



(村上透磨)

9
2012

シリーズ
小教区

魅力ある教会って??

（安曇川教会）

—ミサを待ち望む—

安曇川教会は琵琶湖の最も北西に位置し、山と湖に囲まれ自然に恵まれた「高島市」の中心に位置します。

この地域は昔ながらの農村が中心で、仏教を重んじて成り立っています。とかく「カトリック」に対しては、どこか異端的に見られているように感じます。その中で私たち信徒は広い範囲に分散しています。中でも守山、堅田、京都、宇治、朽木、マキノからも信徒は集まって来ます。ですが、高齢化が進み、身体のトラブルを抱えている人も多く、毎週ミサに

参加することが困難になつて来ている人もいます。ミサに参加したい希望を抱いていますが、参加者は多いときでも25名程度、少ない時は2~3名と寂しさを感じることもあります。

諸般の事情で、昨年度よりミサは毎月、第2、第4、第5日曜日とし、第1日曜日は集会祭儀としています。第3木曜日は聖書研究会として、その中でミサが行われます。

主日のミサが減りましたが、信徒は教会離れもせず、主日を待ち望みながら教会に集まつて来ます。特に家庭的な教会活動を目指して、ミサ後、参加者皆でお茶を飲みながら分かち合いを行つています。それを通じて日頃の悩みや、問題点を皆で助け合いながら、声を掛け合つてミサへの参加を促しています。神父様が連れてこられるお客様方は、一様に「安曇川教会の、家庭的な雰囲気が好きだ」「また来たい」とおっしゃいます。最近話合いの場を広げて、なごやかな話し合いを行えるようにしています。

私たちの祈りの場である安曇川教会では、ミサの中で歌う聖歌は、全員が大きな声で歌つてミサを盛り上げています。教会の周りに花壇を作り、各自が持ち寄った花と合わせて祭壇にささげています。生花を、購入することはあります。

カトリック安曇川教会信徒一同



ロペス神父様はコンピュータやビデオを使い、分かりやすく工夫して聖書研究会を充実させてくださっています。

第1日曜日は集会祭儀を行い、参加者全員何らかの奉仕活動を行い熱心な祈りの時を「御ミサを待ち望みながら」捧げています。共同宣教司牧の協力を仰ぎながら、献金など可能な限りブロック単位で行動するよう心がけています。大祝日にはギター演奏や聖歌で大変盛り上がります。これらの企画が神様の目に留まつたのか？今年の復活祭には若い青年の受洗が行われ、久しぶりの喜びを共にしました。その後も求道者が2名あり、神様は安曇川教会を大切にしておられると感じます。

「求道者に同伴する信徒」

養成講座

2011年9月から2012年5月にかけて、第1回「求道者に同伴する信徒の養成講座」が行われました。この講座は、初めて教会を訪れる人を教会に迎え、マルコ福音書と共に読み、イエス・キリストに出会うためのプロセスに同伴する参加者は13名、共にみことばを味わい、交流を深め、それぞれが信仰を再確認する良い機会となりました。

唐崎教会 谷口正大

わたしは宗教、信仰が醸し出す神秘性に、五感でとらえられないもどかしさを感じる時があります。日々太陽の光と暖かさを受けながら漠然と生活しているわたしは、信仰生活においてもいまだに暗わながらも安易な道を選んでおります。このたび「求道者に同伴する信徒」の講座を受ける機会に恵まれました。この講座ではマルコ福音書を手掛かりにイスの人間性に深く入りこみ、イエスのしさ、声、話し方、風貌、思考、感情などを身近に感じ、聖書に描かれているイエス・キリストは何をなさったか、弟子達を通して現代のわたしたちに何を伝えたか、などをめぐって講話を聴き、

分かち合いを重ね、祈り、默想し、回を重ねる毎にイエスがお創りになつた教会と共に体の使命を強く意識するようになります。

「群衆の中でわたしの衣の端に触れたものがいる、だれか?」とイエスは訊ねられました。教会を訪れる方の多くは渴みを感じ、自分のよりどころを求めて訪ねて来られます。この人々がキリストと出会い、その衣の端に少しでも触れてもらえるように導くことこそ、奉仕者としてのわたしたちに与えられた役割である

ようを感じました。
太陽はレンズを通して焦点を合わせると光り輝き火を発するように、この講座は漠然としていたわたしの心にレンズを通して自分の欠点や弱さにも気付き、回心して、目覚めさせ、信仰の焦点を定めて、より身近にキリストの愛を感じることができました。最後のミサでは心から感謝の祈りをお捧げしました。この講座を通して自分の欠点や弱さにも気付き、回心して導かれ、心が少し豊かになりました。

の祈りをお捧げました。この講座を通じて自分に欠点や弱さにも気付きましたが、私たちに何ができるかと真剣に考え、一回一回の祈りをお捧げました。この講座を通じて自分に欠点や弱さにも気付きましたが、私たちに何ができるかと真剣に考え、一回一回

集うことが、これほど人を開拓し、親しくさせるもののかといふことを再確認した思いです。

初めて教会に来られた方(前求道者)を、いかにイエス様との親しい交わりに導いていくか。(それはもちろん入門式を迎え、神父様にご指導いただきまでの短い期間ではあります)私たちに何が出来るだろうかと真剣に考え、一回一回の講座に熱心に取り組んだと思います。

そしてマルコ福音書を手がかりに、最終的にたどり着いたのは、「イエス、特別に復活後のイエスのように考へ、イエスのように行動する」この一点でした。求道者がイエスに出会うためには、私たちも微力ながら、日々イエスに近づいていかなければなりません。

困難に満ち、奇妙に歪んでいる現在を困らせるべきださつた福音宣教企画室のスタッフの皆様は、参加者の希望を真摯に受け止め、温かく同伴してくださいました。このことは感謝と共に今後の私たちの指針となります。

彦根教会 尾崎与里子

昨秋から、16回にわたって開かれた連続講座は、私にとって神様からの大きな贈り物のような貴重な時間でした。講座はマルコ福音書を中心進められ、8教會から13人の信徒が集いました。初めて出会う遠方の教会の方々も多かったのでですが、スタッフの丁寧な進行とグループによる分かち合いを繰り返す中で、すぐさまに旧知の友のような親しさになりました。同じ信仰を持ち、同じ目的のために



京都教区・濟州教区姉妹教区交流部

神学生の来訪

2005年の姉妹教区縁組以降、毎年、神学生が研修に来ておられます。これまで、12名の神学生をお迎えしていますが、これらの神学生の中から、2006年助祭の折に来訪された夫神父様が2009年に、また、翌2007年に助祭として来訪された崔神父様が2010年に、濟州教区から京都教区に派遣されて、私たちの司牧のために、来て下さっています。

今年は洪(ホン)助祭と鄭(チョン)神学生が、7月2日(月)から21日(土)まで訪洛、小教区訪問・交流、社会福祉施設の見学等の研修をされました。また、金閣寺や清水寺等を観光、祇園祭を楽しんで貰いました。韓国の人に行きたい観光スポットに銀閣寺からの「哲学の道」があるというの驚きの発見でした。

中学生広島平和巡礼

8月3日、濟州教区の「ノヒヨン教会」所属の中学生15名が来日しました。4日(土)から6日(月)までは、京都教区の中学生の平和巡礼に参加、戦争と平和、核(原爆と原発)についてともに考えました。その後、京都・大阪・奈良を観光し、10日(金)に帰国しました。

広島平和巡礼には昨年も濟州教区「東門教会」の中学生13名が参加し、今回は2回目になります。
(文責:交流部 村田)



洪助祭 鄭神学生

主は私を見つけた！

河原町教会 栗山 透

7月7日～8日、岐阜県の多治見神言会ログハウス研修センターにて「主は私を見つけて！」6人の司教と青年たちは出会いそしてWai Wai語る」が大阪管区主催のもとで行われ、京都教区からは僕を含めて青年6人と神父様1人が参加しました。これは大阪管区から6人の司教様が青年たちと接する機会を持ちたいという強い希望のもと実現した集いでした。行程中は参加した50人の青年たちを数グループかに分けてその中に司教様と神父様も加わって一緒に分かち合いをしました。

分かち合いに先立って「信仰のダイナミックメモリー」といって、横軸を年齢、縦軸を幸福度にとって自分の人生の幸福度をその理由を添えて折れ線グラフに書き込んでいく作業をし、さらにその時々の自分と神様との距離のグラフも書き込みました。この作業によってこれまでの自分の歩みの中で信仰がど

のようであったかを確認し、そのもとで分かち合いに臨みました。皆それぞれ悩みがあってその中で今思えば神様が働いて立ち直れた経験があったんだと感じていました。他に青年が司教様に対して持っている質問に司教様が答える時間もありました。

さらに個人默想の時間をとり、その中で司教様、神父様が待機しているところに行き、赦しの秘跡をしてもらって一対一で語り合う機会もあり、2日間を通して非常に充実した時間を持てました。今回のような司教様と青年が接する機会は初めてでしたが、非常に手ごたえのある

集いだったと思思います。このような機会があればまた参加したいと思います。青年の皆さんもぜひ参加して下さい！



9月のお知らせ

教 区

- 福音宣教企画室／Tel.075(229)6800**
典礼研修会「ミサの学び」から典礼奉仕へ
 日 時：25日㊈ 13:30～15:00
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
 講 師：教区典礼委員会
 対 象：集会司式者・聖体授与の臨時の奉仕者
 参加費：無料／但し、各小教区4名まで
聖書委員会／Tel.075(211)3484 ㊈
聖書講座「信仰に生きる一典礼暦に沿って」
 日 時：5日㊈ 19:30／6日㊈ 10:30
 テーマ：主の復活と昇天
 講 師：北村 善朗師
 日 時：26日㊈ 19:30／27日㊈ 10:30
 テーマ：聖霊降臨と三位一体
 講 師：英 隆一朗師(イエズス会)
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
よく分かる聖書の学び
 日 時：19日㊈ 10:30
 講 師：北村 善朗師
 会 場：河原町教会 ヴィリオンホール
 参加費：300円

地区協議会

奈良カトリック協議会

- 聖書講座—信仰の源としての創世記—**
 日 時：14日㊈ 19:00 大和八木教会
 15日㊉ 10:00 奈良教会
 テーマ：信仰の父であるアブラハム(Ⅱ)
 講 師：一場 修師(マリスト会)
 日 時：28日㊈ 19:00 大和郡山教会
 29日㊉ 10:00 奈良教会
 テーマ：エサウとヤコブ、イスラエルの十二の部族
 講 師：大塚 喜直司教
講演会＆列福祈願ミサ
 日 時：23日㊈ 13:00 講演会／15:00 ミサ
 テーマ：高山右近の靈性について考える
 講 師：溝部 倭司教
 場 所：奈良教会

ブロック・修道会

男子カルメル修道会(宇治修道院)

一般のための黙想(松田 浩一師)

日 時：1日㊉ 17:00～2日㊉ 16:00

テーマ：神の国の訪れ

参加費：6,500円(宿泊・食事込)

宿泊なしの参加も可

水曜黙想(松田 浩一師)

日 時：5日㊈ 10:00～16:00

テーマ：テレーズと共に

参加費：2,700円(昼食代他)

社会人のための靈的同伴(松田 浩一師)

日 時：7日㊉ 20:00～8日㊉ 15:00

参加費：5,500円(宿泊・食事込)

聖テレーズの黙想(Sr.伊従 信子)

日 時：30日㊉ 17:00～10月1日㊉ 16:00

参加費：6,500円(宿泊・食事込)

宿泊なしの参加も可

テレジアは現代に何を語るか(九里 彰師)

日 時：22日㊉ 14:30～16:00

テーマ：「完徳の道」に見る「祈りと生活」

場 所：カトリック会館6階

参加費：無料

聖ドミニコ女子修道会(京都修道院)

ロザリオを共に祈る会／Tel.075(231)2017

日 時：21日㊉ 10:30～12:00

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：9日㊉ 14:00／22日㊉ 18:15 ミサ奉仕後

30日㊉ 14:00 カトリック会館6階

京都カナの会

10月7日㊉ 13:30 例会、会員の集い
カトリック会館6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：13日㊈／27日㊈ 10:00 カトリック会館6階

聴覚障がい者の会

黙想会：25日㊈ 11:00～14:00 彦根教会

参加費：1,000円(申込要)／Tel.077(573)6036 亀岡

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星.CATV)スカイAスポーツプラス

毎週土曜日 朝 7:45(放送時間変更)

植村高雄氏(心理療法家)による

シリーズ「元気に生きる」

ラジオ(KBS京都) ⑩～⑪ 朝 5:15

9月のテーマ「美しく老いる」

京都教区サポートセンター

東日本大震災「大船渡支援」献金報告
7月分 794,958円／累計 14,998,228円

ボランティア募集中

詳細は京都教区ホームページをクリック

京都教区

検索

教区広報委員会からのお知らせ

※お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区広報委員会宛にFax.075(211)4345か kouhou@kyoto.catholic.jp に発信者のお名前を明記してお寄せください。

※11月号の原稿締切り日は9月26日㊈です。

担当：大森

大塚司教の

9月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日① 10:00 福音宣教企画室 役員研修会
 2日② 9:30 京都北部地区 宮津ブロック
 司教訪問(加悦)
 3日③-5日⑤ 列聖列福特別委員会(京都)
 6日⑥ 10:00 中央協 常任司教委員会
 8日⑧ 14:00 シンポジウム「いのち 原発
 差別」(大阪梅田教会)
 9日⑨ 10:30 奈良地区 南部ブロック
 司教訪問(西大和)

10日⑩-14日⑯ 教区司祭 年の黙想

(当別トラピスト修道院)

16日⑭ 9:00 京都南部地区 洛東ブロック
 司教訪問(山科)

18日⑯ 15:00 青少年委員会

27日㉓ 13:30 第2回「求道者に同伴する信徒」
 の養成講座①

28日㉔ 19:00 奈良地区聖書講座(大和郡山)

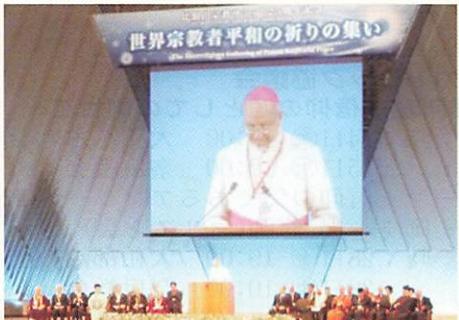
29日㉕ 10:00 奈良地区聖書講座(奈良)

30日㉖ 11:00 京都教区 国際ファミリーデー
 in滋賀地区(ひこね燐バレス)

諸宗教対話 評議会名誉局長 ピエル・ルイジ・チェラータ大司教
 パチカン駐日教皇庁大使 ジョゼフ・チェノットゥ大司教 来訪

パチカンから来日された、諸宗教対話 評議会名誉局長 ピエル・ルイジ・チェラータ大司教様とパチカン駐日教皇庁大使ジョセフ・チェノットゥ大司教様が、8月3日(金)~4日(土)に行われた、国内外の宗教・宗派を越えて平和の道を探る比叡山宗教サミット25周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」への参加のため来訪されました。

また、5日(日)は、河原町教会司教座聖堂で「平和のためのミサ」を奉げてくださいました。



チェラータ大司教による教皇メッセージ
 (国立京都国際会館)



平和の祈り式典(比叡山延暦寺)



平和のためのミサ(河原町教会)
 教皇大使チェノットゥ大司教(中央)
 名誉局長チェラータ大司教(右)